

アキノハハコグサ *Pseudognaphalium hypoleucum* (DC.) Hilliard et B.L.Burt

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 13。全国的に減少傾向の著しい草地性の植物で、愛知県でも同様の状況である。総点は 13 であるが、出現状況が不安定であることを考慮し、絶滅危惧 I B類と評価する。

【形態】

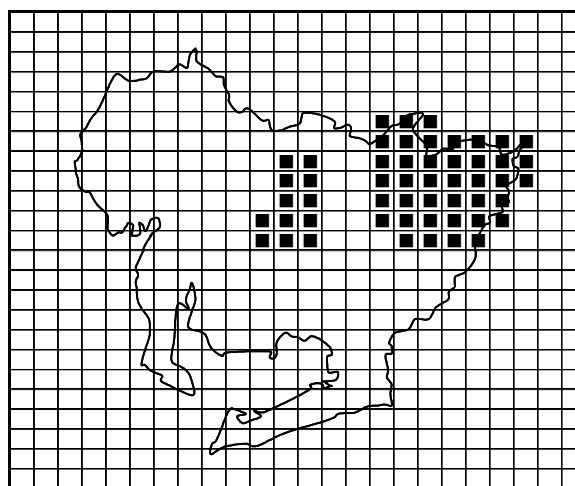
1 年生草本。茎は上部で分枝し、高さ 30~60cm、白い綿毛がある。葉は多数ついて互生し、披針形、長さ 4~5cm、幅 2.5~7mm、表面は緑色、裏面は密に白い綿毛があり、基部はやや茎を抱く。花期は 9~11 月、頭花は茎の先端に散房状に密集してつき、黄色、総苞は球鐘形で長さ 4mm、幅 6~7mm、小花はすべて筒状花である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 54686, 1994-10-22)、2 豊根 (村松正雄 14659, 1993-10-23)、3 東栄 (小林 62281, 1997-9-14)、6 設楽西部 (小林 48561993-10-103)。西：5 稲武 (芹沢 85168, 2009-10-10)、24 豊田東部 (畑佐武司 6915, 2005-10-15)。7 設楽東部でも見たことがある。8 鳳来北東部 (塩瀬, 鳥居喜一 4342, 1978-9-28, HNSM)、10 鳳来北西部 (七郷町大島, 鳥居喜一 22382, 1940-9-29, HNSM)、11 作手 (鳥居喜一 22383, 1941-10-5, HNSM)、19 旭 (小馬山, 大原準之助 1315, 1951-10-7)、21 下山 (黒坂~神殿, 井波一雄 s.n., 1958-10-5, CBM71982)、25 豊田北西部 (猿投山, 岡本英一 818, 1958-9-14)、29 岡崎北部 (上六名町, 高橋 孝 s.n., 1950-9-10)、50 名古屋北部 (東山公園, 稲垣貫一 s.n., 1936-10, CBM 115188) で採集された標本もある。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、東南アジア、インド。

【生育地の環境／生態的特性】

山地のやや乾いた日当たりのよい場所に生育する。しばしば林道わきの崖状地に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

点在しているが、どの場所でも個体数は少ない。大抵はどうということのない場所に生育しているが、それでいてなかなか見ることができない植物である。出現状況もしばしば不安定で、観察した翌年には消えてしまうことも多い。残されている標本から判断すれば、草地が広く存在していた時代には、あちこちに生育していたものと思われる。

【保全上の留意点】

本種が生育できる林道わきの安定した崖状地は、改修や拡幅により急速に失われている。過去に生育が確認されている場所の周辺では、林道の拡幅に際し配慮が必要である。

【特記事項】

ハハコグサも秋に開花することがあるが、それからは全体に大型で茎の上部で分枝し、葉が多数つき、表面が緑色であることで区別できる。ハハコグサは茎の下部で分枝することはあるが、上部で大きく分枝することはない。

【関連文献】

保草本 I p.73, 平草本III p.207, 平新版 5 p.349, 環境省 p.299, SOS 旧版 p.87.